

金属加工で民需獲得急ぐ



シンコーがある長崎県佐世保市には米海軍や海上自衛隊が拠点を置く

九州・沖縄
100億へのストーリー

シンコー（長崎県佐世保市）

米海軍や海上自衛隊の基地がある長崎県佐世保市で艦艇の修繕を手掛けるシンコー（同市）が民間向けの金属加工事業に乗り出す。計25億円を投じ、床面積9000平方メートルの工場を新設する。軍需で培った溶接や塗装などの技術をいかし、産業機械や建設資材といった民需の取り込みを図る。

佐世保市は明治時代に旧日本海軍の鎮守府や工場が設置され、軍港の町として発展した。現在も米海軍や海上自衛隊の基地があり、海上防衛の重要な拠点となっている。

シンコーの概要

売上高	24億円（2024年8月期）
創業	1973年
従業員数	120人（25年9月時点）
所在地	長崎県佐世保市
成長戦略	艦艇修繕の技術をいかした金属製品の製造

シンコーは1973年に前身企業が同市で創業。米軍関連の事業を手掛け、艦艇修繕を主力としてきた。

戦闘機が離着陸する甲板の塗装のはがれや、船内の階段の傷・亀裂など、請け負っている修繕の分野は幅広い。民需を取り込む新たな事業で成長を図りたいとして、これまでの本業で培った塗装や溶接の技術をいかし、金属製品の製造受託を始めることにした。

金属の切断や溶接などの加工から製品の塗装までを一貫して行えるよう、4工場を新設する計画だ。まずは総投資額の約半分の13億円を投じ、金属の切断・溶接を担う2工場を2026年2月に本格稼働させる見通しだ。塗装を担う2工場は事業動向を踏まえて時期

を見て投資する。

長崎県を中心とした企業からの受注を見込む。浦尾敬太社長は「自動車や建設、電力関連など多くの企業で金属加工の外注ニーズは高い。すでに話がまとまりそうな企業もある」と期待感を示す。同社の24年8月期の売上高は24億円で、25年は30億円を見込む。総投資額が年間売上高とほぼ同額という「攻め」の投資に踏み切った背景には軍需に偏った経営体制の見直しがある。

現在の売上高の9割は米軍関連で、残る1割もほとんどが海上自衛隊の修繕費だ。米軍からの発注は入札形式で、年間300～500件ほどの修繕案件を獲得している。ただ「国の軍事予算のため年ごとに案件数も変わり、業績が大きく左右される」（浦尾社長）。

同社は「脱・軍需依存」を図ろうと、艦艇の修繕で育ててきた技術を持つ人材をいかし、民需獲得へ体制整備を急ぐ。完成後の稼働率にもよるが、新工場では30～40人ほどの新規雇用も検討している。35年には売上高100億円の大台に到達させ、そのうちの4割を金属加工業で稼ぐ目標を描いている。

（鈴木見優）

技術生かし「脱・軍需依存」